

■ コナカイガラムシ類

実施年度	作物名 (品種名) 栽培条件	害虫名 (種名) 調査項目	実施場所	圃場	発生条件	濃度・量	処理方法	回数	処理月日 (調査時期)	対照薬剤 処理条件	対照	対無処理	判定	薬害
2017	カンキツ (湘南ゴールド) 5年生	カイガラムシ類 (ミカンヒメコナカイガラムシ) (補正密度(A、L))	神奈川 根府川	施設	多 (放虫)	2,000倍 500ml/樹	散布	1	8/15 (処理7、15日後)	D剤 2,000倍	B	A	A	-
2018	カンキツ (青島温州) 5年生	コナカイガラムシ類 (ミカンヒメコナカイガラムシ) (補正密度(A、L))	静岡県	施設 (鉢)	中 (接種)	2,000倍 2ℓ/4樹	散布	1	8/28 (処理7、14、22日後)	I剤 1,500倍	C	B	B	-
2018	カンキツ (宮川早生) 5年生	コナカイガラムシ類 (フジコナカイガラムシ) (補正密度(A、L))	山口柑	施設 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 2ℓ/樹	散布	1	9/1 (散布7、14日後)	J剤 2,000倍	C	A	B	-
2018	カンキツ (宮川早生) 1~4年生	コナカイガラムシ類 (ミカンヒメコナカイガラムシ) (補正密度(A、L))	愛媛果	施設 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 0.6ℓ/樹	散布	1	6/15 (処理12、20日後)	E剤 3,000倍	B	A	A	-

■ ミカンハモグリガ

実施年度	作物名 (品種名) 栽培条件	害虫名 (種名) 調査項目	実施場所	圃場	発生条件	濃度・量	処理方法	回数	処理月日 (調査時期)	対照薬剤 処理条件	対照	対無処理	判定	薬害
2009	カンキツ (青島温州) 5年生	ミカンハモグリガ (被害率、被害度)	静岡県	露地 (ポット)	多	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	3	7/8、13、18 (新梢伸長期) (最終処理13日後)	F剤 4,000倍	B	A	A	-
2009	カンキツ (宮川早生) 6年生	ミカンハモグリガ (被害度)	山口柑	露地 (ポット)	甚	2,000倍 370ml/樹	散布	1	9/20 (処理32日後)	H剤 4,000倍	B	B	B	-
2009	カンキツ (南柑20号) 13年生	ミカンハモグリガ (被害度、被害率)	愛媛果	露地	中	2,000倍 1.5ℓ/樹	散布	3	7/7、18、28 (処理10日後)	B剤 4,000倍	C	B	B	-

■ アブラムシ類

実施年度	作物名 (品種名) 栽培条件	害虫名 (種名) 調査項目	実施場所	圃場	発生条件	濃度・量	処理方法	回数	処理月日 (調査時期)	対照薬剤 処理条件	対照	対無処理	判定	薬害
2009	カンキツ (宮川早生) 8年生	アブラムシ類 (ユキヤナギアブラムシ) (補正密度(A、L))	愛知蒲郡	露地	中	2,000倍 十分量	散布	1	8/11 (処理3~7日後)	F剤 4,000倍	B	A	A	-
2009	カンキツ (宮川早生) 6年生	アブラムシ類 (ユキヤナギアブラムシ) (虫数)	山口柑	露地 (ポット)	多	2,000倍 370ml/樹	散布	1	9/20 (3日後、5日後、7日後)	H剤 4,000倍	B	A	A	-
2010	カンキツ (林温州) 9年生	アブラムシ類 (ユキヤナギアブラムシ) (虫数)	和歌山果	露地	多	2,000倍 7ℓ/樹	散布	1	6/2 (4日後、7日後、14日後)	B剤 4,000倍	B	A	B	-

■ カメムシ類

実施年度	作物名 (品種名) 栽培条件	害虫名 (種名) 調査項目	実施場所	圃場	発生条件	濃度・量	処理方法	回数	処理月日 (調査時期)	対照薬剤 処理条件	対照	対無処理	判定	薬害
2017	カンキツ (興津早生) 5年生鉢植え	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ) (死亡率(A))	静岡県	露地	多 (放虫)	2,000倍 2ℓ/3樹	散布	1	10/9 (処理4日後放飼3日後)	K剤 2,000倍	B	B	B	-
2017	カンキツ (早生品種) 37年生	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ) (死亡虫数、吸汁痕数(A))	佐賀果	露地	多 (放虫)	2,000倍 7ℓ/樹	散布	1	7/22 (処理1、3、7日後放虫、 各放虫3日後)	G剤 3,000倍	A	A	A	-
2017	カンキツ (川野夏橙) 20年生	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ) (死亡率(A))	熊本果	露地	多 (放虫)	2,000倍 5ℓ/樹	散布	1	8/28 (散布1、4、7日後放虫、 各3日後)	L剤 2,000倍	B	A	A	-

■ ミカンバエ成虫

実施年度	作物名 (品種名) 栽培条件	害虫名 (種名) 調査項目	実施場所	圃場	発生条件	濃度・量	処理方法	回数	処理月日 (調査時期)	対照薬剤 処理条件	対照	対無処理	判定	薬害
2017	カンキツ (青島温州) 10年生	ミカンバエ(成虫) (死亡虫数、苦悶虫数、生虫率)	山口柑	露地	多 (放虫)	2,000倍 十分量	散布	1	(1)6/14(処理1日後放虫、 6日後) (2)6/17(処理7日後)	I剤 1,500倍	C	A	B	-
2017	カンキツ (宮川早生) 7、15年生	ミカンバエ(成虫) (死亡率(A))	愛媛果	露地	多 (放虫)	2,000倍 4ℓ/樹	散布	1	7/3 (処理1日後、処理1日後 放虫7日後)	M剤 2,000倍	C	B	B	-
2017	カンキツ (大津八号) 8年生	ミカンバエ(成虫) (苦悶・死亡率(A))	大分果津	露地 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	5/29 【残効試験(処理1日後)】 (放虫7日後)	M剤 2,000倍	C	A	B	-



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078
9:00~12:00、13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。



アドマイヤー® プラス
フロアブル

技術資料

夏場で決まる！
チャノキ防除の強力助っ人
アドマイヤー®「プラス」で決める！

アドマイヤー®

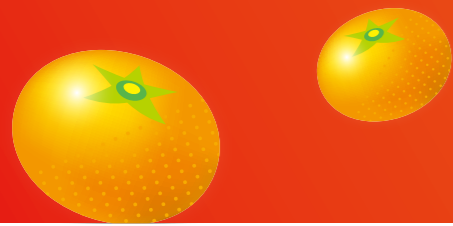
プラス



製品情報の詳細は
こちらから



®アドマイヤーはバイエルグループの登録商標



アドマイヤー®プラス
フロアブル

特長① 作用性の異なる殺虫剤の混合剤で、従来の薬剤に感受性の低下した
チャノキイロアザミウマに対して優れた効果を発揮します。

特長② 幅広い殺虫スペクトラムを有し、6～7月のチャノキイロアザミウマの対策剤として、
ゴマダラカミキリ(成虫)、ミカンハモグリガ、アブラムシ類等主要害虫の同時防除が可能です。

適用害虫および使用方法

農林水産省登録：第24102号 2021年11月現在の登録内容

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り 使用液量(ℓ)	使用時期	使用回数*	使用方法
かんきつ	コナカイガラムシ類	2,000	200～700	収穫21日前まで (ただし、露地栽培については 発芽期から開花期を除く)	本剤：2回 イミダクロプリド：3回 エチプロール：2回	散布 無人航空機 による散布
	アザミウマ類	32	4～7.5			
	アブラムシ類	40～50	7.5～15			
	カメムシ類	100	15～30			
	ゴマダラカミキリ成虫 ミカンバエ成虫 ミカンハモグリガ	200	30～50			

*印は収穫物の残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

■ 注意事項

- 使用量に合わせ秤量、または薬液を調製し、使いきって下さい。
- 使用前によく振ってから使用して下さい。
- 畜に対して長期間毒性があるので、絶対に養蚕にかからないようにして下さい。
- ミツバチおよび野生ハナバチ類に対して影響があるので、以下のことに注意して下さい。
 - ① ミツバチの巣箱およびその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないで下さい。
 - ② 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
 - ③ 開花期終了後に使用する場合、適用作物の花弁の大部分が落下または乾燥するか、花が閉じてから使用して下さい。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
 - ① 散布は散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
 - ② 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
 - ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。

- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 医薬用外劇物。取扱いは十分に注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- 使用残りの薬液が生じないように調製し、使いきって下さい。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管して下さい。盗難、紛失の際は、警察に届け出て下さい。

安全性(人畜・水産動植物)

■ 人畜安全性：劇物

急性経口毒性(ラット♀) LD ₅₀	>2,000mg/kg
急性経皮毒性(ラット♀) LD ₅₀	>2,000mg/kg
皮膚刺激性(ウサギ)	刺激性なし
眼刺激性(ウサギ)	刺激性なし
皮膚感受性(マウス)	感受性なし

■ 水産動植物に対する影響

魚類急性毒性(コイ) LC ₅₀	>100mg/ℓ(96時間)
ミジンコ急性遊泳阻害(オオミジンコ) EC ₅₀	95.6mg/ℓ(48時間)
藻類生長阻害(緑藻) ErC ₅₀	>100mg/ℓ(0～72時間)

有効成分の名称および物理的・化学的性状等

有効成分	イミダクロプリド(アドマイヤー®)	エチプロール(キラップ®)
成分量	9.1%	9.1%
化学名	1-(6-クロロ-3-ピリジリルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン	5-アミノ-1-(2,6-ジクロロ- α , α -トリフルオロ- p -トリル)-4-エチルスルフィニルピラゾール-3-カルボニトリル
構造式		
水溶解度(20℃)	480mg/ℓ	9.2mg/ℓ
蒸気圧	2.0×10 ⁻⁷ Pa(20℃)	9.1×10 ⁻⁸ Pa(25℃)
オクタノール/水分係数(log Pow)	0.57(21℃)	2.9(20℃)
作用機構	ネオニコチノイド系 殺虫剤分類 4A ●シナプス後膜(ニコチン性アセチルコリン受容体)に作用し、神経を興奮させた後に遮断し、昆虫の活動低下を引き起こします。 ●口や皮膚から昆虫体内に容易に取り込まれ速効的な殺虫活性を示しますが、致死濃度以下でも全身的な弛緩や運動能力の低下を引き起こし、摂食、吸汁活動や歩行、飛翔行動を妨げ、交尾、産卵などの行動を抑え、その効果は長期間続きます。	フェニルピラゾール系 殺虫剤分類 2B ●神経シナプス部位に作用します。 ●通常は抑制性神経伝達物質であるGABA(γ -アミノ酪酸)がGABA受容体に結合することでシナプス後膜の電位が低下し、神経興奮が抑制されますが、エチプロールはこのプロセスを阻害することでシナプス後膜の電位が低下せず、結果として神経興奮が抑制されず害虫を死に至らしめます。

殺虫スペクトラム

各種害虫への活性		アドマイヤー®プラスフロアブル	イミダクロプリド	エチプロール
アザミウマ目	チャノキイロアザミウマ	ネオニコチノイド剤感受性 ○	○	○
		ネオニコチノイド剤低感受性 ○	○～△	○
カメムシ目	アブラムシ類	○	○	○
	カメムシ類	○	○	○
	コナカイガラムシ類	○	○	○
チョウ目	アカマルカイガラムシ	○	○	○
	ミカンハモグリガ	○	○	△
ハエ目	ミカンバエ成虫	○	○	△
コウチュウ目	ゴマダラカミキリ	○～○	○～○	△

活性：○高い、○あり、△低い、-なし

混用事例

【殺虫剤】

アブロードエースフロアブル	コルト顆粒水和剤	テルスターフロアブル
アブロード水和剤	コロマイト水和剤	トランスフォームフロアブル
アブロードフロアブル	サンマイト水和剤	ハーベストオイル
エクシブルSE	スピノエースフロアブル	ハチハチフロアブル
オマイト水和剤	スプラサイト乳剤40	パロックフロアブル
オリオン水和剤40	ダニエモンフロアブル	マッチ乳剤
カスケード乳剤	ダニゲッターフロアブル	
カネマイトフロアブル	ダニコングフロアブル	
キラップJ水和剤	ダニサラバフロアブル	
クミアイアタックオイル	ダブルフェースフロアブル	
コテツフロアブル	テルスター水和剤	

【殺菌剤】

アリエッチ水和剤	デランフロアブル
イオウフロアブル	ナティーボフロアブル
エムダイファー水和剤	ナリアWDG
キンセツ水和剤	ハレード15フロアブル
キンセツ水和剤80	ファンタジスタ顆粒水和剤
コサイド3000	フロンサイドSC
サルファーゾル	ベンコゼブ水和剤
ジマンダイセン水和剤	マネージDF
ジャストフィットフロアブル	ランマンフロアブル
スイッチ顆粒水和剤	ロブラール水和剤
ストロビードライフロアブル	

【展着剤】 アビオン-E まくびか

アドマイヤー®プラスフロアブルとの混用によって、薬害が認められなかった事例です。なお、気象条件、栽培条件、生育ステージ、品種などにより異なった結果が得られることも予想されます。上記事例は、使用の安全性を保證するものではなく、あくまでも参考事例としてお取扱い下さい。

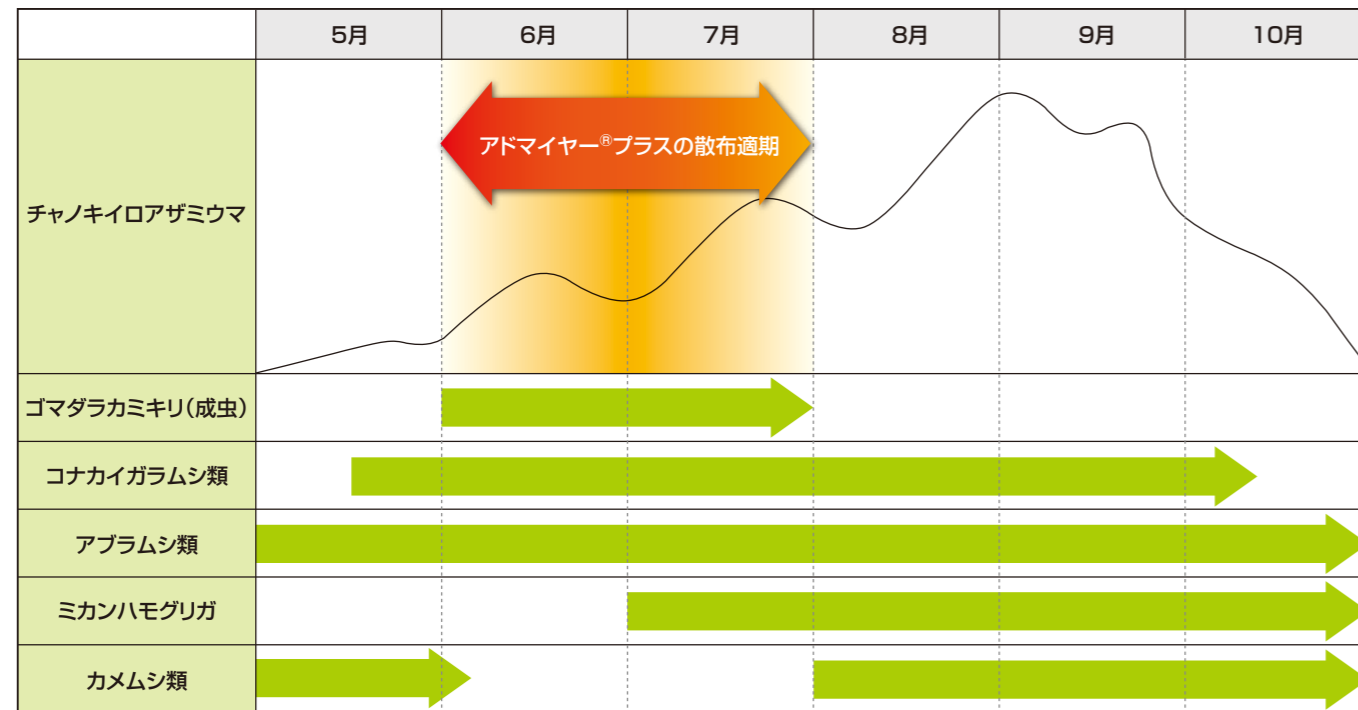
作物への安全性

以下の品種では薬害が認められませんでした。

青島温州	林温州
湘南ゴールド	興津早生
豊福早生	宮川早生
伊予柑	川野夏橙
南柑20号	宮内伊予柑
大津八号	

上手な使い方

チャノキイロアザミウマの防除が最も重要な時期にあたる、6月～7月の対策剤として最適です。

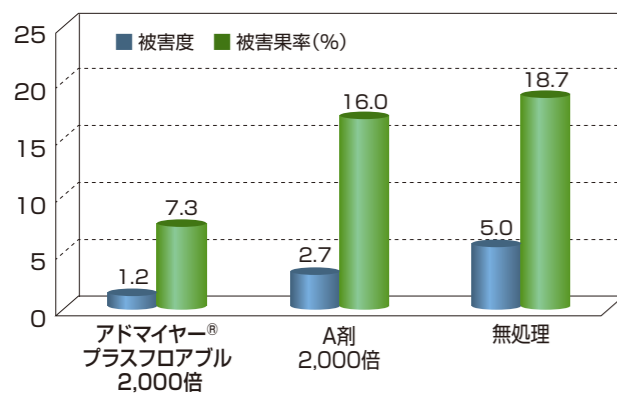


試験成績

チャノキイロアザミウマ

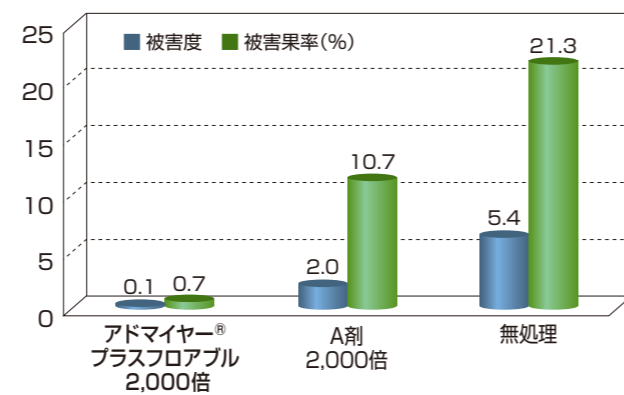
2009年 神奈川県農業技術センター足柄地区事務所根府川分室

果梗部被害



品種：青島温州(25年生、露地)
発生：少発生
区制：1区5樹(うち3樹を調査)
処理日：7月13日、8月12日、9月15日
処理方法：動力噴霧器で10ℓ/樹散布
調査方法：10月15日に1樹50果について果梗部および果頂部の被害を調査(果頂後期被害は無処理区でも発生なし)。

果頂部前期被害



A剤2,000倍散布と比較し優る、高い防除効果が認められました。

※この資料に掲載されている試験における散布回数および使用量は、登録の内容と異なる場合があります。

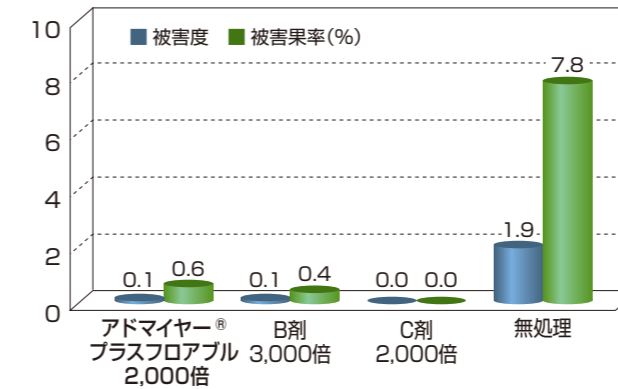


アドマイヤー®プラス
フロアブル

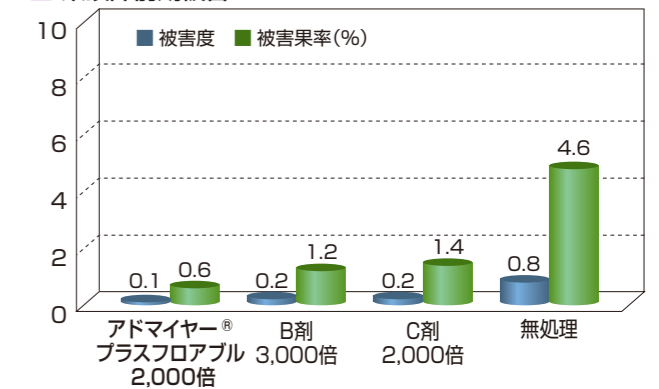
チャノキイロアザミウマ

2009年 和歌山県植物防疫協会

果梗部被害



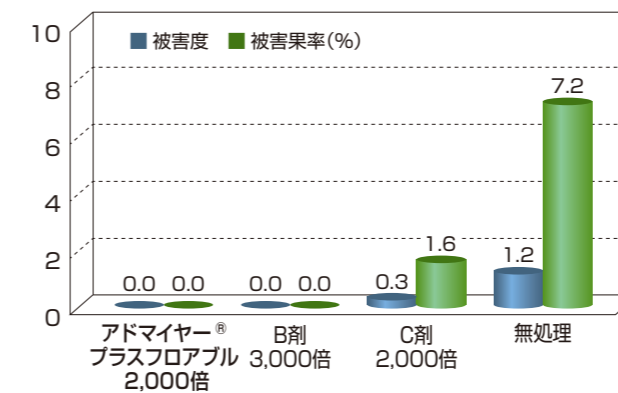
果頂部前期被害



品種：興津早生(14年生、露地)
発生：少発生
区制：1区5樹
処理日：6月9日、7月9日、8月7日、9月8日
処理方法：動力噴霧器で約7ℓ/樹散布。
調査方法：10月13日に1樹100果について果梗部および果頂部の被害を調査。

B剤3,000倍散布と比較し同等の防除効果が認められました。

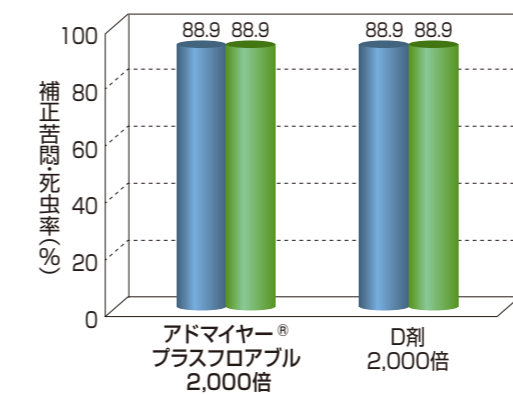
果頂部後期被害



ゴマダラカミキリ

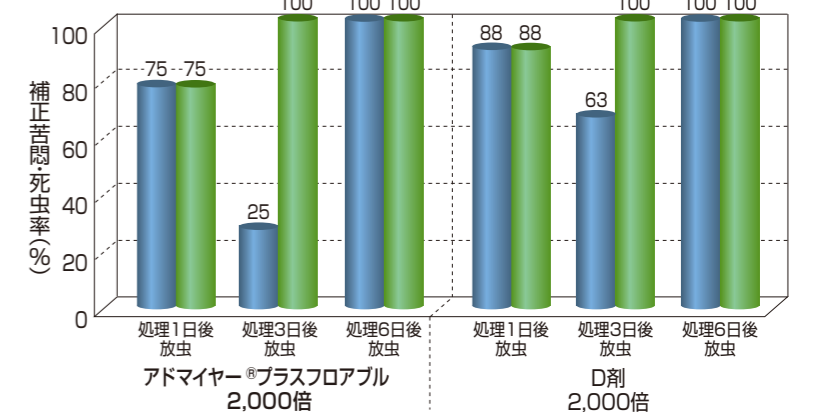
2017年 山口県農林総合技術センター農業技術部 柑きつ振興センター

直接殺虫試験



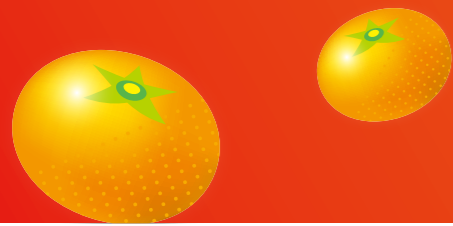
品種：青島温州(36年生、露地) 発生：多発生(放虫)
区制：1区1枝3反復 処理日：6月22日
処理方法：動力式噴霧器で虫体に十分量散布・風乾したのち、1区当り6頭を供試樹へ放虫。
調査方法：放虫1、3日後に苦悶・死亡虫数を調査。

残効試験



品種：青島温州(3年生、ポット、屋内) 発生：多発生(放虫)
区制：1区1樹2反復 処理日：6月25日
処理方法：動力式噴霧器で0.5ℓ/樹散布し、処理1、3、6日後に1区当り4頭を放虫。
調査方法：放虫1、2日後に苦悶・死亡虫数を調査。

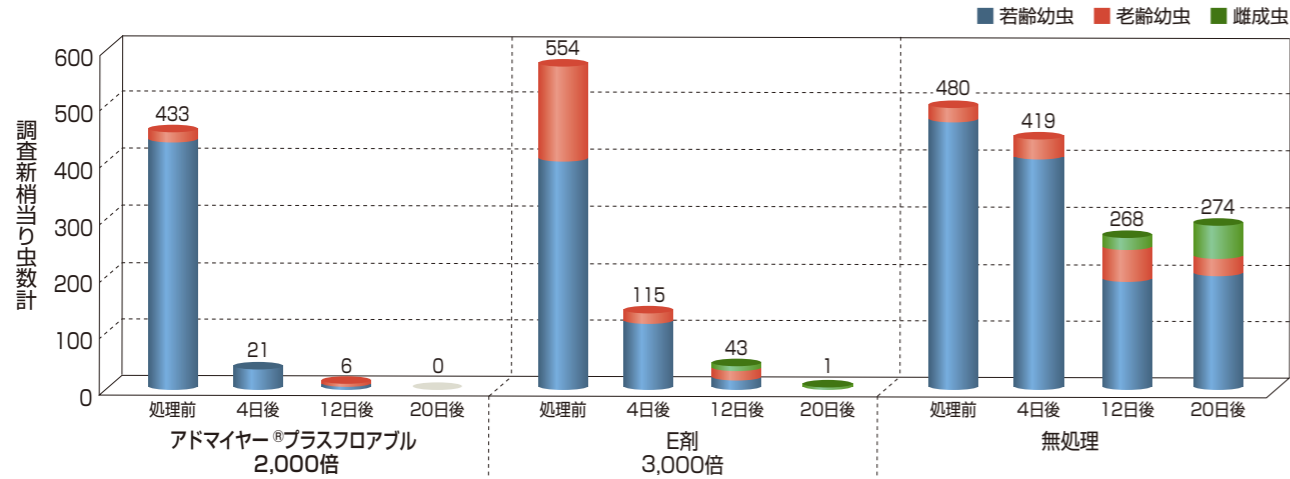
D剤2,000倍散布と比較し同等の、高い防除効果が認められました。



アドマイヤー®プラス
フロアブル

コナカイガラムシ類(ミカンヒメコナカイガラムシ)

2018年 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター

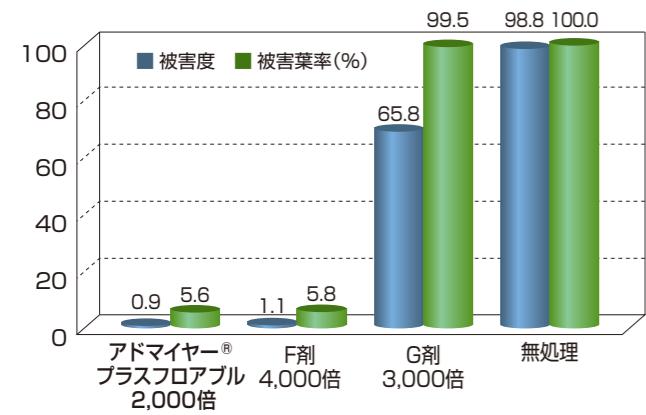


品種：宮川早生(1~4年生、鉢植え、施設) 発生：多発生(放虫)
 区制：1区1樹3~8新梢3反復 処理日：6月15日
 処理方法：動力噴霧機で600ml/樹散布。
 調査方法：処理前、処理4、12、20日後に寄生虫数を調査。

E剤3,000倍散布と比較し同等の、高い防除効果が認められました。

ミカンハモグリガ

2009年 静岡県農林技術研究所 果樹研究センター

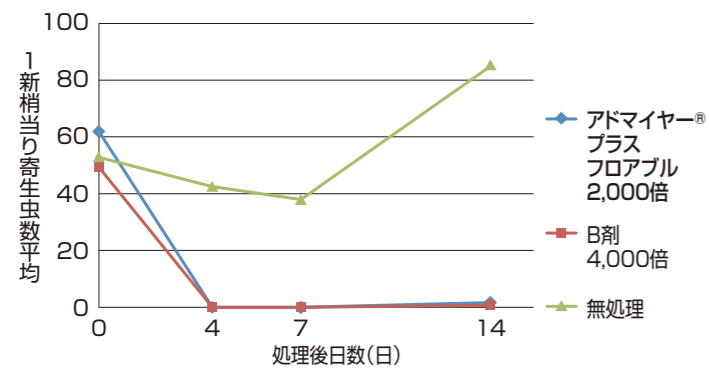


品種：青島温州(5年生、露地、鉢植え) 発生：多発生
 区制：1区1樹3反復 処理日：7月8日、7月13日、7月18日
 処理方法：0.5ℓ/樹散布 調査方法：7月31日に1樹7枝の全葉について被害程度を調査。

F剤4,000倍散布と比較し同等の、高い防除効果が認められました。

アブラムシ類(ユキヤナギアブラムシ)

2010年 和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場

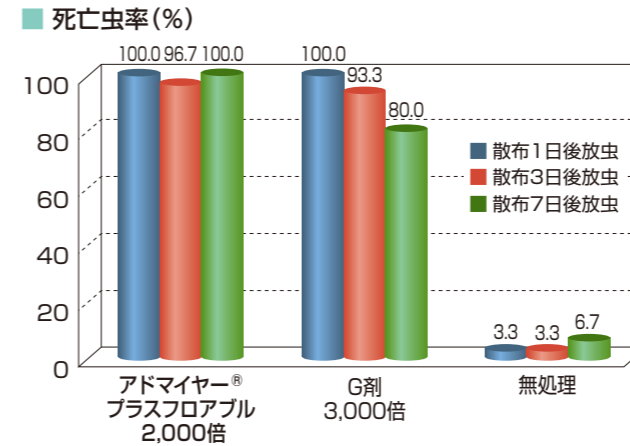


品種：林温州(9年生、露地) 発生：多発生(放虫)
 区制：1区1樹3反復 処理日：6月2日
 処理方法：動力噴霧器で約7ℓ/樹散布。
 調査方法：1樹当り5枝について処理前、処理4、7、14日後の寄生虫数を調査。

B剤4,000倍散布と比較し同等の、高い防除効果が認められました。

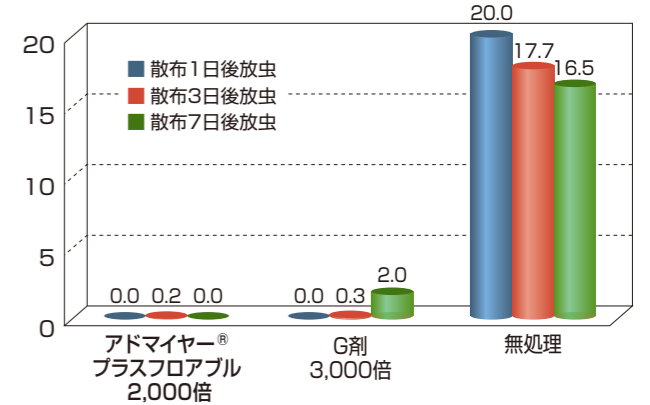
カメムシ類(チャバネアオカメムシ)

2017年 佐賀県果樹試験場



品種：早生品種(37年生、露地) 発生：多発生(放虫)
 区制：1区1樹3反復 処理日：7月22日
 処理方法：動力式噴霧器で7ℓ/樹散布
 調査方法：散布1、3、7日後に成虫を1樹当り10頭を1枝2果実に放虫し、放虫3日後に死亡虫数および吸汁痕数を調査。

吸汁痕数平均



G剤3,000倍散布と比較し優る、高い防除効果が認められました。

新農薬実用化試験概評

アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)

実施年度	作物名(品種名)栽培条件	害虫名(種名)調査項目	実施場所	圃場	発生条件	濃度・量	処理方法	回数	処理月日(調査時期)	対照薬剤処理条件	対照	対無処理	判定	被害
2009	カンキツ(青島温州)25年生	アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)〈被害度〉	神奈川 根府川	露地	少	2,000倍 10ℓ/樹	散布	3	7/13、8/12、9/15(10/15)	A剤 2,000倍	A	A	A	-
2009	カンキツ(興津早生)14年生	アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)〈被害果率、被害度〉	和歌山 植(果)	露地	少	2,000倍 7ℓ/樹	散布	4	6/9、7/9、8/7、9/8(10/13)	B剤 3,000倍	B	B	B	-
2009	カンキツ(興津早生)16年生	チャノキイロアザミウマ(被害果率)	広島県	露地	少	2,000倍 5ℓ/樹	散布	3	6/17、7/27、8/25(最終散布35日後)	F剤 5,000倍	B	A	A	-

ゴマダラカミキリ

実施年度	作物名(品種名)栽培条件	害虫名(種名)調査項目	実施場所	圃場	発生条件	濃度・量	処理方法	回数	処理月日(調査時期)	対照薬剤処理条件	対照	対無処理	判定	被害
2017	カンキツ(青島温州)①36年生②3年生	ゴマダラカミキリ(死亡虫数、苦悶虫数、食害数・卵数・幼虫食害)	山口柑	①露地②施設(ポット)	多(放虫)	2,000倍 ①十分量②0.5ℓ/樹	散布	1	①6/22(処理1、2、3日後)、②6/25(処理1、3、6日後放虫:1、2日後)	D剤 2,000倍	B	A	A	-
2017	カンキツ(宮川早生)3~5年生	ゴマダラカミキリ(死亡率、食害程度)	愛媛果	露地(ポット)	多(放虫)	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	6/12、16、18(処理1、3、7日後、放虫1、2日後)	H剤 4,000倍	C	B	B	-
2018	カンキツ(川野夏橙)21年生	ゴマダラカミキリ(死亡率(A))	熊本果	露地(ポット)	中(放虫)	2,000倍 5ℓ/樹	散布	1	6/12(散布1日後放虫:2日後、散布3日後放虫:3日後)	I剤 2,000倍	A	A	A	-

(次頁に続く)